

夫婦のどちらかが染色体の構造異常を有している場合に、どちらかを特定せずに染色体均衡型構造異常の保因者であることを知らせる選択肢について予め意思の確認をすることが望まれる。不育症への対応策を考えるうえで、夫婦のどちらかを特定することは必ずしも夫婦にとって長所につながらないからである。

4. 抗リン脂質抗体

抗 CL β ₂GPI 複合体抗体

抗 CL IgG 抗体

抗 CL IgM 抗体 [保険診療外]

ループスアンチコアグラント (dRVVT 法と aPPT 法が保険収載されている)

陽性となった際は 12 週間以上の間隔をあけて再検することが必要。

陽性が持続 : 抗リン脂質抗体症候群と診断する

陽性から陰性 : 偶発的抗リン脂質抗体陽性例と診断する

[選択的検査]

5. 抗リン脂質抗体

抗 PE IgG 抗体、抗 PE IgM 抗体

6. 血栓性素因スクリーニング (凝固因子検査)

第 XII 因子活性

プロテイン S 活性もしくは抗原

プロテイン C 活性もしくは抗原

APTT

【研究的段階の検査】

1. 内分泌検査

多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) のスクリーニング

2. 抗リン脂質抗体

抗 PS IgG 抗体、抗 PS IgM 抗体

3. 免疫学的検査

NK 活性、(Th1/Th2 比)

4. 自己抗体

抗核抗体

抗 DNA 抗体

5. ストレス評価

K6

* 日産婦生殖免疫委員会生殖内分泌委員会 2004 で推奨されていた下垂体検査（LH、FSH、PRL）、黄体機能検査（P4）は不妊症では重要であるが不育症の検査からは削除した。また二次スクリーニングの同種免疫検査（遮断抗体活性、抗 HLA 抗体）は明確なエビデンスがないため削除した。上記項目以外の多くの項目が研究的段階の検査として行われているが、患者の同意を得た上で研究的段階の検査として施行することが望ましい。

【不育症のリスク毎の治療】

1. 子宮形態異常

研究班の成績で双角子宮、中隔子宮での流産胎児染色体異常率（15.4%）が、正常子宮例流産の値（57.5%）より低率であることが明らかとなっている。すなわち双角子宮、中隔子宮では胎児染色体異常のない流産が増加する。また、今回の班研究で中隔子宮では手術療法の方が観察群に比し妊娠成功率が高いことが判明したが、双角子宮では手術群と観察群での妊娠成功率は同じであった。以上より現時点では双角子宮をもつ不育症に対しての積極的な手術療法はメリットがない、中隔子宮についてはメリットがあるかもしれないというのが研究班の意見である。また弓状子宮での手術療法についての有用性についても、明確なエビデンスはないので、積極的な手術療法はファーストチョイスの治療法ではない。

2. 甲状腺機能亢進、低下症

内科専門医の診療をうけ、正常機能となってから妊娠を許可する。妊娠後も引き続き治療が必要。厚労研究班のデータでは少数例であるが甲状腺機能亢進・低下例の無治療での妊娠成功率は3/12（25.0%）と低率であった。

3. 糖尿病

内科専門医の診断をうけ、十分にコントロールしてから次回妊娠に望む。妊娠後も引き続き治療が必要。

4. 染色体異常

夫婦のどちらかに均衡型転座などの染色体構造異常が発見されたら、十分な遺伝カウンセリングを行う。その際、累積生児獲得率は染色体正常カップルと比べても決して低くないこと、流産を回避する目的で着床前診断を行う選択肢があることなどを説明する。なお現在のところ、着床前診断を行った方が自然妊娠より生児獲得率が高くなるというエビデンスはない。着床前診断の適応と運用に関しては日本産科婦人科学会の見解を遵守し、倫理審査を経た上で実施する。

5. 抗リン脂質抗体症候群

抗リン脂質抗体のいずれかが陽性であった場合、12 週間以上の間隔をあけて再検することが必要である。

1) くり返し抗 CL β_2 GPI 複合体抗体、抗 CL IgG、抗 CL IgM 抗体、ループスアンチコアグラント検査のうちいずれか 1 つ以上が陽性の際

低用量アスピリン (1 日 81~100 mg) +ヘパリンカルシウム (5000IU×2/朝・夕 皮下注) が基本的な治療法となる。ヘパリン投与時にはヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) が、まれに起こることがあるので投与開始 2 週間前後で血小板数を確認する必要がある。

2) 偶発的抗リン脂質症候群陽性例 (再検して陰性化した場合)

これらの症例に対するエビデンスレベルの高い治療方法はないが、無治療だと流産率が高いことも一部で指摘されているため、低用量アスピリン療法を行なうことも一法である。

3) 抗 PE 抗体、抗 PS 抗体

抗 PE 抗体陽性、抗 PS 抗体陽性者は現在のところ抗リン脂質抗体症候群には含まれない。これらの症例に対しての、明確な治療方針は未だない。今後の検討課題である。ただし今回の班研究の結果から、未だ明確なエビデンスとはなっていないが、抗 PE 抗体陽性者に対してアスピリン療法を行うのも一法である。

6. Protein S 欠乏症 (60%未満)

妊娠 10 週までのくり返す初期流産の既往がある際、低用量アスピリン療法を行なった方が妊娠成功率が高いというデータが、今回の厚労研究班で明らかとなった。未だ明確なエビデンスとなっていないが、低用量アスピリン療法を行うことも一法である。

妊娠 10 週以降の流・死産の既往がある場合、次回妊娠時に行う低用量アスピリン+ヘパリン療法が低用量アスピリン療法より有効であるとする報告がある。そのため低用量アスピリン+ヘパリン療法を勧めても良い。

7. Protein C 欠乏症 (60%未満)

明確な管理方針はないが、Protein S 欠乏症に準じた管理方法を行なう。

8. 第 XII 因子欠乏症 (50%未満)

明確な治療方針はないが、多くの場合、低用量アスピリン療法で良好な治療成績が得られる。アスピリン療法を行なっても胎児染色体異常を認めない流産という結果になれば、次回妊娠時に低用量アスピリン療法+ヘパリン療法を勧めても良いかもしれない。

9. 2回までの流産既往の場合

流産リスクが無い場合も有る場合も、臨床心理士もしくは産婦人科医によるカウンセリングを行なった方がストレスが改善し、妊娠成功率が高いことが研究班の成績で明らかとなった。カウンセリングを受けることができなければ、十分な時間をとってリスク因子や今後の治療方針をていねいに説明したり、夫婦で参加する不育症学級などを企画し、参加を呼びかけても良い。

10. ストレスが強うつ状態である場合

K6 が簡便にストレスを評価できる方法である。ストレスが強い場合でも多くの場合、上記の方法（カウンセリングや時間をかけた説明）で改善すると班員による成績がある。不十分であれば精神神経科医を受診し、認知行動療法等の精神神経科的治療をうけると有効である場合がある。これらは未だ論文化されておらず明確なエビデンスとなっていないが、試みても良い方法であろう。

	1いつも	2たい てい	3とき どき	4少し だけ	5まった くない
a 神経過敏に感じましたか	4	3	2	1	0
b 絶望的だと感じましたか	4	3	2	1	0
c そわそわしたり、落ち着きなく感じましたか	4	3	2	1	0
d 気分が沈み込んで、何が起ころしても気が晴れないように感じましたか	4	3	2	1	0
e 何をするのも骨折りだと感じましたか	4	3	2	1	0
f 自分は価値のない人間だと感じましたか	4	3	2	1	0

K6 は抑うつ、不安のスクリーニングである。K6 値の総和が 5-9 点で 10%に、10 点以上で 50%に不安障害、うつ病に相当するといわれている (Furukawa et al. Int J Methods Psychiatr Res. 2008;17:152-158)。

11. リスク因子が不明である場合

多くの場合、胎児染色体異常をくり返した偶発的な流産をくり返した症例であるので、カウンセリングや十分な説明を行うのみで、特別な治療を必要としない。しかし、一部の症例で難治性の原因不明流産が含まれている。

【抗凝固療法の実際】

アスピリン服用時期は班員の間でも妊娠を計画した際から服用する、妊娠反応が陽性となってから服用するなど、一定の見解はない。また終了時期も妊娠 28 週まで、もしくは妊娠 36 週まで、と一定していない。欧米では妊娠 36 週までのアスピリン投与が一般的であるが、アスピリン投与が日本では妊娠 28 週以降禁忌となっているのも一因である。

ヘパリン療法は妊娠反応陽性になってから開始するのが一般的であり、初回量のめやすとして 5,000IU×2 回/日、皮下注を分娩開始時まで続行するのが基本である。APTT 値は必ずしも延長させなくても良いとする報告もあるが、上限は初期値の 2 倍までとする。重篤な副作用としてヘパリン起因性血小板減少症（HIT：ヘパリンと血小板第 4 因子複合体による自己抗体により血小板減少と動静脈血栓症が引き起こされる）があるので、治療開始 2 週間前後で血小板数をチェックする必要がある。HIT を疑った際、その時点でヘパリン投与を中止し抗トロンビン薬としてアルガトロバン（商品名：スロンノンHI 注）を投与するが、専門医に紹介した方がよい。

また長期にヘパリンを使用すると骨量減少を起こすことがあるので、カルシウムの多い食事を摂ってもらうよう食事指導をする。

【難治症例に対する治療法】

低用量アスピリン+ヘパリン療法でも流産してしまった際、次回妊娠時にステロイド+低用量アスピリン+ヘパリン療法を行なうこともあるが、その効果についてはむしろ懐疑的である。また 4~6 回以上流産既往のある難治症性に対して自費診療で大量ガンマグロブリン療法が行なわれることもある。一部に有効である症例もあるが、未だエビデンスとなっていない。また、極めて高価な治療法である。

【原因不明（偶発的流産例）例に対する治療法】

研究班の成績で CGH アレイ法で染色体の異常を検討すると流産胎児の 80%に染色体異常が検出されていた。そのため流産回数が 2 回、3 回、4 回の場合、計算上、リスク因子がなく偶発的に流産をくり返しただけの人が 64%、51%、41%存在する。医師ならびに患者はリスクがなくても偶発的に流産をくり返している症例が多いことを認識すべきである。精査を行なっても原因不明であった場合、安易にアスピリンやヘパリンを使用するのではなく、カウンセリングを行ない、次回妊娠に対する不安を取り除いてから、患者や家族の理解が得られた上で、無治療で次回妊娠に臨んでも妊娠は継続する可能性は高い。

【治療を行っても再度流産となった場合】

流産検体の染色体分析（自費検査）や病理検査を行うことが、その後の妊娠を考える上ではきわめて重要である。染色体異常が確認され胎児側要因が明らかになれば、再度早めの妊娠トライが望ましく、染色体異常が認められない場合は治療法の再考が必要となる。また病理検査により抗凝固療法などの適応を判断できる場合もある。

【現在の不育症治療の問題点】

不育症スクリーニングで一次スクリーニングである夫婦染色体検査、抗リン脂質抗体、抗 CL IgM 抗体が保険収載されていない。また同様に不育症例で流産した絨毛の染色体検査も保険収載されていない。また欧米では推奨レベル A で、抗リン脂質抗体症候群や血栓性素因をもつ不育症に対して広く行われているヘパリンならびにヘパリンの自己注射が保険診療として認められていない。以上より多くの不育症患者（今回の研究班でリスク因子の判明した不育症の約半数は、血栓性素因を持つことが判明している）は自費診療を余儀なくされており、経済的負担は大きいものがある。これらを改善する必要性を強く感じる。

また専門医が少なく、スクリーニングも不十分で過剰な医療が行われているケースもあるため、本治療指針を参考にして不育症治療が全国で正しく行われることを切望する。また不育症例のかかえる「うつ」に関しての専門医が少なく十分に対応できていないので、早急に対策を講じる必要がある。

研究発表

1. 論文発表

【2008年】

- 1) Sugiura-Ogasawara M., Aoki K., Fujii T., Fujita T., Kawaguchi R., Maruyama T., Ozawa N., Sugi T., Takehita T., Saito S.: Subsequent pregnancy outcomes in recurrent miscarriage patients with a paternal or maternal carrier of a structural chromosome rearrangement. *J Hum Genet.* 53(7):622-628, 2008.
- 2) Nakashima A., Shiozaki A., Myojo S., Ito M., Tatematsu M., Sakai M., Takamori Y., Ogawa K., Nagata K., Saito S.: Granulysin produced by uterine natural killer cell induces apoptosis of extravillous trophoblast in spontaneous abortion. *Am J Pathol.* 173(3):653-664, 2008.
- 3) Lin Y., Zhong Y., Shen W., Chen Y., Shi J., Di J., Zeng S., Saito S.: TSLP-induced placental DC activation and IL-10+ NK cell expansion: Comparative study based on BALB/cx C57BL/6 and NOD/SCID X C57 BL/6 pregnant models. *Clin Immunol* 126:104-117, 2008.
- 4) Saito S., Nakashima A., Myojo-Higuma S., Shiozaki A.: The balance between cytotoxic NK cells and regulatory NK cells in human pregnancy. *J Reprod Immunol* 77(1):14-22, 2008
- 5) Sugiura-Ogasawara M., Ozaki Y., Nakanishi T., Sato T., Suzumori N., Nozawa K.: Occasional antiphospholipid antibody positive patients with recurrent pregnancy loss also merit aspirin therapy: A retrospective cohort-control study. *Am J Reprod Immunol* ; 59 : 235-241, 2008.
- 6) Maruyama T., Yoshimura Y: Molecular and cellular mechanisms for differentiation and regeneration in the uterine endometrium. *Endocrine Journal.* 2008; 55(5), 795-810
- 7) Nagashima T, Maruyama T., Uchida H, Kajitani T, Arase T, Ono M, Oda H, Kagami M, Masuda H, Nishikawa S, Asada H, Yoshimura Y: Activation of SRC kinase and phosphorylation of STAT5 are required for decidual transformation of human endometrial stromal cells. *Endocrinology.* 2008; 149(3), 1227-1234
- 8) Ohta K, Maruyama T., Uchida H, Ono M, Nagashima T, Arase T, Kajitani T, Oda H, Morita M, Yoshimura Y: Glycodelin blocks progression to S phase and inhibits cell growth: a possible progesterone-induced regulator for endometrial epithelial cell growth. *Molecular Human Reproduction.* 2008; 14(1) 17-22
- 9) Ozawa N*, Maruyama T., Nagashima T, Ono M, Arase T, Ishimoto H, Yoshimura Y: Pregnancy outcomes of reciprocal translocation carriers who have a history of repeated pregnancy loss. *Fertil Steril.* 2008; 90(4) 1301-1304
- 10) Hao L., Noguchi S., Kamada Y., Sasaki A., Adachi M., Shimizu K., Hiramatsua Y., and Nakatsuka M.: Adverse Effects of Advanced Glycation End Products on Embryonal Development. *Acta Medica Okayama.* 62(2):93-99, 2008.
- 11) Emi Y., Adachi M., Sasaki A., Nakamura Y., Nakatsuka M.: Increased arterial stiffness in female-to-male transsexuals treated with androgen. *J. Obstet. Gynaecol. Res.* 34(5):890-897, 2008
- 12) Ueda N., Kushi N., Nakatsuka M., Ogawa T., Nakanishi Y., Shishido K., Awaya T.: Study of Views on Posthumous Reproduction, Focusing on its Relation with Views on Family and Religion in Modern Japan. *Acta Medica Okayama* 62(5):285-296, 2008.
- 13) Goto Y., Nakatsuka M., Okuda H.: Effects of aging on heart rate variability and its relationship to psychosomatic complaints in women. *Journal of the Japan Society of Neurovegetative Research.* 45(6):1-9, 2008.
- 14) Kawaguchi R., Tanaka T., et al. Priming of peripheral monocytes with prolactin sensitizes IFN-gamma-mediated indoleamine 2,3-dioxygenase expression without affecting IFN-gamma signaling. *J Reprod Immunol* 77 : 117-125, 2008.
- 15) Itoh H, Tanaka T., et al. A case-control study of the association between urinary cadmium concentration and endometriosis in infertile Japanese women. *Science of the Total Environment* 2008; 402: 171-175.
- 16) Akira S, Negishi Y, Abe T, Ichikawa M, Takehita T.: Prophylactic intratubal injection of methotrexate after linear salpingostomy for prevention of persistent ectopic pregnancy. *J Obstet Gynaecol Res.* 2008; 34(5):885-9.

- 17) Matsubayashi H, Sugi T, Uchida N, Suzuki T, Izumi S-I, Mikami M. Decreased factor XII activity is associated with recurrent IVF-ET failure. *Am J Reprod Immunol*; 59: 316-322, 2008.
- 18) Inomo A, Sugi T, Fujita Y, Matsubayashi H, Izumi S-I, Mikami M. The antigenic binding sites of autoantibodies to factor XII in patients with recurrent pregnancy losses. *Thromb Haemost*; 99: 316-323, 2008.
- 19) Yamamoto T, Murase T, Kuno S, Ichikawa G, Chisima F. Leukocyte Subpopulation in Ascites of Women with Pre-Eclampsia. *Am J Reprod Immunol*. 60(4):318-324,2008
- 20) Yuzawa E, Fujii S, Fukui A, et Al. Retinoic acid-inducible gene-1 is induced by interferon-gamma and regulated CXCL11 expression in HeLa cells. *Life Science* 82: 670-675, 2008
- 21) Fujii S: Biomarkers for embryo quality. *J Mamm Ova Res* 25: 1. 2008
- 22) Fukuhara R, Fujii S, Fukui A, et al. Erythrocytes counteract the negative effects of female ageing on mouse preimplantation embryo development and blastocyst formation. *Hum Reprod* 2008;23:2080-5.
- 23) Ozawa N, Maruyama T, Nagashima T, Ono M, Arase T, Ishimoto H, Yoshimura Y. Pregnancy outcomes of reciprocal translocation carriers who have a history of repeated pregnancy loss. *Fertil Steril* 90(4):1301-4, 2008
- 24) Yamada T, Matsuda T, Kudo M, Yamada T, Moriwaki M, Nishi S, Ebina Y, Yamada H, Kato H, Ito T, Wake N, Sakuragi N, Minakami H. (2008) Complete hydatidiform mole with coexisting dichorionic diamniotic twins following testicular sperm extraction and intracytoplasmic sperm injection. *J Obstet Gynaecol Res* 34(1):121-124.
- 25) Morikawa M, Yamada T, Yamada T, Cho K, Yamada H, Sakuragi N, Minakami H. (2008) Pregnancy outcome of women who developed proteinuria in the absence of hypertension after mid-gestation. *J Perinat Med* 36(5):419-424.
- 26) Morikawa M, Sago H, Yamada T, Hayashi S, Yamada T, Cho K, Yamada H, Kitagawa M, Minakami H. (2008) Ileal atresia after fetoscopic laser photocoagulation for twin-to-twin transfusion syndrome—a case report. *Prenat Diagn* 28(11):1072-1074.
- 27) The human tumor-associated antigen RCAS1 in pregnancies complicated by pre-eclampsia. Tskitishvili, E., Komoto, Y., Kinugasa, Y., Kanagawa, T., Song, M., Mimura, K., Tomimatsu, T., Kimura T, Shimoya, K. *Journal of Reproductive Immunology* 77:100-108,2008.
- 28) Immunisation with a plasmid DNA vaccine encoding gonadotrophin releasing hormone (GnRH-1) and T-helper epitopes in saline suppresses rodent fertility. Khan, M.A.H., Ogita, K., Ferro, V.A., Kumasawa, K., Tsutsui T, Kimura T. *Vaccine* 26:1365-1374, 2008.
- 29) Urata, M., Koga-Wada, Y., Kayamori, Y. and Kang D. (2008) Platelet contamination causes large variation as well as overestimation of mitochondrial DNA content of peripheral blood mononuclear cells. *Ann Clin Biochem*, 45, 513-514.
- 30) Ohga, S., Ideguchi, H., Kato, J., Ishimura, M., Takada, H., Harada, N., Kawanaka, H., Hattori, Y., Kang D., Hamasaki, N. et al. (2008) Thromboembolic Complications in Splenectomized Patients with Dominantly Inherited beta-Thalassemia. *Acta Haematol*, 120, 31-35.
- 31) Hamaguchi M, Hamada D, Suzuki KN, Sakata I, Yanagihara I. Molecular basis of actin reorganization promoted by binding of enterohaemorrhagic *Escherichia coli* EspB to alpha-catenin. *FEBS Journal*, 5(24), pp6260-7, 2008
- 32) Hamada D, Tsumoto K, Sawara M, Tanaka N, Nakahira K, Shiraki K, Yanagihara I. Effect of an amyloidogenic sequence attached to yellow fluorescent protein. *Proteins*, 2(3), pp811-21, 2008
- 33) Kuramochi-Miyagawa S, Watanabe T, Gotoh K, Totoki Y, Toyoda A, Ikawa M, Asada N, Kojima K, Yamaguchi Y, Ijiri TW, Hata K, Li E, Matsuda Y, Kimura T, Okabe M, Sakaki Y, Sasaki H, Nakano T. (2008). DNA methylation of retrotransposon

- genes is regulated by Piwi family members MILI and MIWI2 in murine fetal testes. *Genes Dev* 22, 908-917.
- 34) Hu YG, Hirasawa R, Hu JL, Hata K, Li CL, Jin Y, Chen T, Li E, Rigolet M, Viegas-Pequignot E, Sasaki H, Xu GL (2008). Regulation of DNA methylation activity through Dnmt3L promoter methylation by Dnmt3 enzymes in embryonic development. *Hum Mol Genet* 17, 2654-2664.
- 35) 島 友子, 齋藤 滋: 第 3 章 臓器特異的な樹状細胞 4. 生殖器における樹状細胞サブセット機能. 「実験医学増刊」 140-145, 2008.
- 36) 長谷川徹, 齋藤 滋: I 病態と疾患 産科救急 流産・絨毛性疾患. 救急医学, 32(9):995-999, 2008.
- 37) 中島彰俊, 伊藤実香, 齋藤 滋: 妊婦の感染症 妊婦の免疫学. 臨床婦人科産科, 62(6):807-811, 2008.
- 38) 齋藤 滋:【生殖医療の現状と問題】不育症の原因と治療. 日本医師会雑誌, 137:39-43, 2008.
- 39) 齋藤 滋:生殖医療 日本生殖免疫学会. 産婦人科の実際. 57(1):1071-1075, 2008
- 40) 塩崎有宏, 齋藤 滋: 甲状腺疾患合併妊娠. 日本産科婦人科学会雑誌, 60:41-45, 2008.
- 41) 塩崎有宏, 齋藤 滋: 自己免疫疾患・膠原病合併妊娠. 日本産科婦人科学会雑誌, 60:45-49, 2008.
- 42) 塩崎有宏, 酒井正利, 齋藤 滋: II. 産科(周産期) § 10. 妊娠 1. 妊娠の生理. 「産婦人科学テキスト」倉智博久・吉村泰典編集, 380-420, 中外医学社, 東京, 2008.
- 43) 杉浦真弓: 研修コーナー「不育症」. 日本産科婦人科学会誌, 60: 505-509, 2008.
- 44) 杉浦真弓: 抗リン脂質抗体の診断基準. シリーズで学ぶ最新知識. 産婦人科の実際, 57: 1155-1158, 2008.
- 45) 杉浦真弓: 抗リン脂質抗体の治療. シリーズで学ぶ最新知識. 産婦人科の実際, 57: 1287-1290, 2008.
- 46) 杉浦真弓: 抗リン脂質抗体と凝固線溶系. シリーズで学ぶ最新知識. 産婦人科の実際, 57: 1431-1434, 2008.
- 47) 杉浦真弓: 抗リン脂質抗体症候群と不育症. 血栓止血の臨床-研修医のために IV. 日本血栓止血学会誌, 19: 336-338, 2008.
- 48) 吉村泰典, 苛原稔, 松田公志, 杉浦真弓, 米本昌平: 生殖医療のもつ倫理的諸問題(企画、座談会). 日本医師会雑誌, 137: 5-16, 2008.
- 49) 杉浦真弓: 着床前診断・出生前診断の現状. 日本医師会雑誌, 137: 49-52, 2008.
- 50) 杉浦真弓: 不育症の診断と治療. Nagoya Medical Journal, 49: 149-152, 2008.
- 51) 大谷友夏, 因來実里, 秦久美子, 佐藤久恵, 永井真寿美, 中塚幹也. 流産・死産のグリーフケア: 母親と医療スタッフの捉え方. 日本不妊カウンセリング学会誌 7(1): 57-58, 2008.
- 52) 江見弥生, 藤原順子, 相澤亜紀, 中塚幹也. 生殖医療を専門としたカウンセリングに対する認知度と要望. 日本不妊カウンセリング学会誌 7(1): 68-69, 2008.
- 53) 川上舞子, 藤井友紀, 田上志保, 溝口祥代, 吉田真奈美, 山下真由, 中塚幹也. 凝固障害を伴う不育症患者のヘパリン注射に対する希望調査. 岡山県母性衛生 24(1): 42-43, 2008.
- 54) 後藤由佳, 山中祥栄, 莎如拉, 中塚幹也, 奥田博之. 自律神経機能と卵巣機能との関連—心拍変動解析を用いて—. 岡山県母性衛生 24(1):48-49, 2008.
- 55) 江見弥生, 中間みちよ, 藤原順子, 秦久美子, 佐藤久恵, 江國一二美, 中塚幹也. 不妊症・不育症治療におけるカウンセリングへの認知度と要望. 岡山県母性衛生 24(1): 61-62, 2008.
- 56) 因來実里, 中塚幹也, 秦久美子, 佐藤久恵, 大谷友夏, 永井真寿美, 佐々木真美, 松井たみこ. 死産後のグリーフケアの有用性. 岡山県母性衛生 24(1): 69-70, 2008.
- 57) 丸山哲夫, 吉村泰典: E. 婦人科疾患の診断・治療・管理 3. 内分泌疾患 嚢胞性卵巣症候群 日本産婦人科学会雑誌 2008; 60(11) 477-484.
- 58) 丸山哲夫, 小野政徳, 吉村泰典: ハイポキシア生物学—酸素代謝からみる生命現象の方程式 胎盤形成と酸素分圧 医学のあゆみ 2008; 225(13) 1323-1326
- 59) 丸山哲夫, 小田英之, 西川明花, 各務真紀, 内田 浩, 吉村泰典: 特集 思春期の諸問題 1. 排卵障害 産科と婦人科 2008; 75(5) 529-536
- 60) 内田 浩, 荒瀬 透, 小野政徳, 各務真紀, 小田英之, 西川明花, 丸山哲夫, 吉村泰典: 月経異常を伴う内分泌疾患 産婦人科治療 別冊 2008; 96(2) 163-168
- 61) 丸山哲夫, 西川明花, 小田英之, 荒瀬 透, 小野政徳, 各務真紀, 内田 浩, 吉村泰典: I. 生

- 殖内分・不妊 2. 無月経 産科と婦人科 増刊号 2008; 75 8-14
- 62) 丸山哲夫, 長島 隆, 梶谷 宇, 内田 浩, 吉村泰典: 子宮内膜脱落膜化の機序の解明-チロシンキナーゼ SRC の役割と意義- 産婦人科の実際 2008; 57(2) 193-198
- 63) 根岸靖幸(日本医科大学 微生物免疫学教室), 稲垣真一郎, 熊谷善博, 竹下俊行, 高橋秀実: 樹状細胞 樹状細胞サブセットとその機能 妊娠マウスにおける樹状細胞の解析 日本免疫学会誌 (0919-1984)38 巻, 205, 2008.
- 64) 稲川智子, 阿部崇, 峯克也, 桑原慶充, 里見操緒, 富山僚子, 明楽重夫, 竹下俊行 弓状子宮は不育症の原因になりうるか? 日本生殖医学会雑誌(1881-0098)53 巻 4 号, 282, 2008.
- 65) 杉浦真弓, 川口里恵, 丸山哲夫, 小澤伸晃, 杉俊隆, 竹下俊行, 斎藤滋. 染色体転座をもつ反復流産患者の生児獲得率に関する多施設共同研究 日本生殖医学会雑誌 (1881-0098)53 巻 4 号 Page281,2008.
- 66) 竹下俊行: 習慣流産と母性について考える. 日産婦神奈川地方部会誌45巻(1)2-5, 2008.
- 67) 稲川智子、竹下俊行: 周産期臨床検査のポイント【産科編 不育症(習慣流産)に対する検査 産婦人科の実際 57巻(12) 2013-2019, 2008.
- 68) 杉 俊隆. 特集 周産期診療プラクティス、不育症とその対策. 産婦人科治療. 第 96 巻増刊号. 550-554. 2008.
- 69) 杉 俊隆. 不育症. 産科と婦人科. 第 75 巻増刊号. 41-46, 2008.
- 70) 杉 俊隆. 不育症学級. 全65ページ. 金原出版. 2008.
- 71) 古田 祐, 白銀 透, 涌井之雄, 山田秀人, 酒井慶一郎(2008) 双胎妊娠管理中に発症した全身性エリテマトーデス. 北海道産科婦人科学会誌 52(1), 28-30.
- 72) 山田秀人(2008)ITP と妊娠中の問題点. 「血栓止血の臨床-研修医のために」 日本血栓止血学会誌 19(2): 202-205.
- 73) 山田秀人, 西川 鑑, 山本智宏, 水江由佳, 西平 順(2008) 妊婦の感染-胎児への影響と対策 トキソプラズマ. 「今月の臨床 妊婦の感染症」 臨床婦人科産科 62(6): 839-843.
- 74) 山田秀人(2008)TORCH 症候群 18.産科感染症の管理と治療 D.産科疾患の診断・治療・管理(研修コーナー) 日産婦誌 60(6):N132-136.
- 75) 山田秀人(2008)血小板異常と妊娠分娩-特発性血小板減少性紫斑病, 血小板無力症. 「周産期の出血」徹底攻略. 周産期医学 38(7), 837-842.
- 76) 山田秀人, 免疫グロブリン胎児医療研究会(2008)先天性サイトメガロウイルス感染症に対する免疫グロブリン療法. 日産婦誌 60(9): N288-295.
- 77) 山田秀人, 免疫グロブリン胎児医療研究会(2008)先天性サイトメガロウイルス感染症と免疫グロブリン療法. 産婦人科治療 97(5): 485-493.
- 78) 森川 守, 山田 俊, 山田秀人, 水上尚典(2008)妊娠中の暫定的診断「妊娠蛋白尿」の病的意義. 腎と透析 61:717-723.
- 79) 山田秀人(2008)羊水過多・過少. 今日の治療指針2008版, 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編, 医学書院, 東京, 950-951.
- 80) 山田秀人, 北海道トキソプラズマ研究会, 免疫グロブリン胎児医療研究会(2008)胎児医療の現状と将来-母子感染治療と予防における新たな試み, 周産期診療プラクティス, 産婦人科治療第 96 巻増刊号, 松浦三男編, 永井書店, 大阪, 23-30.
- 81) 山田秀人(2008)妊娠, 授乳「各論II 多臓器, 組織におけるホルモン相互作用」ホルモンの病態異常と臨床検査. 臨床検査2008年増刊号52巻11号, 藤枝憲二, 伊藤喜久編, 医学書院, 東京, 1351-1354.
- 82) 山田秀人(2008)血液型不適合妊娠. 「各種病態に必要な検査(合併症妊娠に必要な母体の検査)」。周産期臨床検査のポイント産科編 周産期医学第 38 巻増刊号, 周産期医学編集委員会編, 東京医学社, 東京, 240-243.
- 83) 山田 俊, 山田秀人, 水上尚典(2008)絨毛膜羊膜炎の診断. 切迫早産の診断と治療, 岩下光利監修, メジカルビュー社, 東京, 98-109.
- 84) 難波文彦, 柳原格他. 子宮内感染/抗アネキシン A2 IgM 抗体. 小児科.49(7): 989-994, 2008.
- 85) 柳原格, 下屋浩一郎. 「胎内感染と流早産・新生児合併症」. 日本周産期・新生児医学会雑誌 44(4), pp1032-3, 2008

- 86) 白石淳、北島博之、藤村正哲、難波文彦、柳原格、長谷川妙子、田端厚之、中山雅弘。「当センターにおける超早産児からのウレアプラズマ属細菌の検出頻度とその臨床背景」. 近畿新生児研究会会誌、17、pp31-5、2008
- 87) 中山雅弘、柳原格、濱中拓郎、末原則之、白石淳、北島博之。「FIRSの制御に向けた7年、胎盤病理と生殖・胎内環境整備」. 日本周産期・新生児医学会雑誌、44(2)、p318、2008
- 88) 柳原格。「妊婦及び早産児からのウレアプラズマ属細菌の分離培養」. 日本産婦人科感染症研究会会誌、24、pp41-5、2008
- 89) 野崎昌俊、柳原格。「V(D)J組換え—Accessibilityから病態解析まで—」. 大阪府立母子医療センター雑誌、24(2)、pp65-70、2008
- 90) 久須美真紀、中林一彦、秦健一郎(2008). 体外培養・長期培養の胚発生への影響: 動物実験と臨床データから. *J Mammal Ova Res* 25, 221-230.
- 91) 秦健一郎(2008). 死産の動物モデル. *産科と婦人科* 75, 419-425.
- 7) Sugiura-Ogasawara M, Sato T, Suzumori N, Nakanishi T, Nozawa K, Ozaki Y. The polycystic ovary syndrome does not predict further miscarriage in Japanese couples experiencing recurrent miscarriages. *Am J Reprod Immunol* 2009; 62: 314-319.
- 8) Sugiura-Ogasawara M, Ozaki Y, Kitaori T. Diagnosis and treatment methods for recurrent miscarriage cases. *Reprod Med Biol* 2009; 8: 141-144
- 9) Maruyama T; Therapeutic Strategies for Implantation Failure due to Endometrial Dysfunction. *J. Mamm. Ova Res.* 2009; 26, 129-133.
- 10) Arase T, Uchida H, Kajitani T, Ono M, Tamaki K, Oda H, Nishikawa S, Kagami M, Nagashima T, Masuda H, Asada H, Yoshimura Y, Maruyama T; The UDP-glucose receptor P2RY14 triggers innate mucosal immunity in the female reproductive tract by inducing IL-8. *J Immunol.* 2009; 182, 7074-7084.

【2009年】

- 1) Lin Y, Nakashima A, Shima T, Zhou X, Saito S: Toll-like receptor signaling in uterine natural killer cells—role in embryonic loss. *J.Reprod Immunol.* 83:95-100,2009.
- 2) Saito S: The Causes and Treatment of Recurrent Pregnancy Loss. *JMAJ.* 52(2): 97-102, 2009
- 3) Lin Y., Ren L., Wang W., Di J., Zeng S., Saito S: Effect of TLR3 and TLR7 activation in uterine NK cells from non-obese diabetic (NOD) mice. *J.Reprod Immunol.* 82:12-23, 2009.
- 4) Lin Y., Wang W., Jin H., Zhong Y., Di J., Zeng S., Saito S: Comparison of murine thymic stromal lymphopoietin- and polyinosinic polycytidylic acid-mediated placental dendritic cell activation. *J Reprod Immunol.* 79:119-128,2009.
- 5) Lin Y., Zhong Y., Saito S, Chen Y., Shen W., Di J., Zeng S. : Characterization of natural killer cells in nonobese diabetic/severely compromised immunodeficient mice during pregnancy. *Fertil Steril.* 2009;91:2676-2686.
- 6) Sugiura-Ogasawara M, Ozaki Y, Kitaori T, Suzumori N, Obayashi S, Suzuki S. Live birth rate according to maternal age and previous number of recurrent miscarriages. *Am J Reprod Immunol* 2009; 62: 314-319.
- 11) Yuka Goto, Hiroyuki Okuda, Mikiya Nakatsuka. Autonomic response in women with psychosomatic symptoms: short-term frequency, domain analysis of heart rate variability in ergometer loading. *Journal of the Japan Society of Neurovegetative Research* 2009, 46(4) : 341-348.
- 12) Okamoto S, Tanaka T, et al. Mesenchymal to epithelial transition in the human ovarian surface epithelium focusing on inclusion cysts. *Oncol Rep* 21:1209-1214, 2009.
- 13) Omi H, Kawaguchi R, Tanaka T, et al. Establishment of an immortalized human extravillous trophoblast cell line by retroviral infection of E6/E7/hTERT and its transcriptional profile during hypoxia and reoxygenation. *Int J Mol Med* 23:229-236, 2009.
- 14) Ishibashi O, Ishikawa G, Ishikawa T, Katayama A, Mishima T, Takizawa T, Shigihara T, Goto T, Izumi A, Ohkuchi A, Matsubara S, Takehita T, Takizawa T. Human villous trophoblasts express and secrete placenta-specific microRNAs into

- maternal circulation via exosomes. *Biol Reprod.* 2009 Oct;81(4):717–29. Epub 2009 Jun 3.
- 15) Sugi T. Autoantibody associated disruption of kallikrein–kinin system in patients with recurrent pregnancy losses. *Jpn J Obstet Gynecol Neonatal Hematol.* 18 : 67–76. 2009.
 - 16) Tomohiro Nakayama, Tatsuo Yamamoto Comparison between essential hypertension and pregnancy–induced hypertension:a genetic perspective *Endocrine Journal* 56(8), 921–934,2009
 - 17) Fukui A, Fujii S, et al. Correlation between natural cytotoxicity receptors and intracellular cytokine expression of peripheral blood NK cells in women with recurrent pregnancy losses and implantation failures. *Am J Reprod Immunol* 62, 371–380, 2009.
 - 18) Kimura H, Fukui A, Fujii S, et al. Timed sexual intercourse facilitates the recruitment of uterine CD56(bright) natural killer cells in women with infertility. *Am J Reprod Immunol* 62, 118–124, 2009.
 - 19) Nishikawa A, Yamada H, Yamamoto T, Mizue Y, Akashi Y, Hayashi T, Nihei T, Nishiwaki M, Nishihira J. (2009) A case of congenital toxoplasmosis whose mother demonstrated serum low IgG avidity and positive tests for multiplex–nested PCR in the amniotic fluid. *J Obstet Gynaecol Res* 35(2):372–378.
 - 20) Yamada H, Atsumi T, Kobashi G, Ota C, Kato EH, Tsuruga N, Ohta K, Yasuda S, Koike T, Minakami H. (2009) Antiphospholipid antibodies increase the risk of pregnancy–induced hypertension and adverse pregnancy outcomes. *J Reprod Immunol* 79:188–195.
 - 21) Sata F, Toya S, Yamada H, Suzuki K, Saijo Y, Yamazaki A, Minakami H, Kishi R. (2009) Proinflammatory cytokine polymorphisms and the risk of preterm birth and low birth weight in a Japanese population. *Mol Hum Reprod* 15(2):121–130.
 - 22) Shimada S, Yamada H, Hoshi N, Kobashi G, Okuyama K, Hanatani K, Fujimoto S. (2009) Specific ultrasound findings associated with fetal chromosome abnormality. *Congenit Anom (Kyoto)* 49(2):61–65.
 - 23) Shimada S, Takeda M, Nishihira J, Kaneuchi M, Sakuragi N, Minakami H, Yamada H. (2009) A high dose of intravenous immunoglobulin increases CD94 expression on natural killer cells in women with recurrent spontaneous abortion. *Am J Reprod Immunol* 62(5):301–307.
 - 24) Sumitani, M., Kasashima, K., Ohta, E., Kang, D. and Endo, H. (2009) Association of a novel mitochondrial protein M19 with mitochondrial nucleoids. *J Biochem,* 146, 725–732.
 - 25) Pohjoismaki, J.L., Goffart, S., Tyynismaa, H., Willcox, S., Ide, T., Kang, D., Suomalainen, A., Karhunen, P.J., Griffith, J.D., Holt, I.J. et al. (2009) Human heart mitochondrial DNA is organized in complex catenated networks containing abundant four–way junctions and replication forks. *J Biol Chem,* 284, 21446–21457.
 - 26) Ono, M., Aoki, Y., Masumoto, M., Hotta, T., Uchida, Y., Kayamori, Y. and Kang, D. (2009) High–dose penicillin G–treatment causes underestimation of serum albumin measured by a modified BCP method. *Clin. Chim. Acta,* 407, 75–76.
 - 27) Ishimura, M., Saito, M., Ohga, S., Hoshina, T., Baba, H., Urata, M., Kira, R., Takada, H., Kusuhara, K., Kang, D. et al. (2009) Fulminant sepsis/meningitis due to *Haemophilus influenzae* in a protein C–deficient heterozygote treated with activated protein C therapy. *Eur J Pediatr,* 168, 673–677.
 - 28) Hokazono, E., Osawa, S., Nakano, T., Kawamoto, Y., Oguchi, Y., Hotta, T., Kayamori, Y., Kang, D., Cho, Y., Shiba, K. et al. (2009) Development of a new measurement method for serum calcium with chlorophosphonazo–III. *Ann Clin Biochem,* 46, 296–301.
 - 29) Fukuoh, A., Ohgaki, K., Hatae, H., Kuraoka, I., Aoki, Y., Uchiumi, T., Jacobs, H.T. and Kang, D. (2009) DNA conformation–dependent activities of human mitochondrial RNA polymerase. *Genes Cells,* 14, 1029–1042.
 - 30) Trinh QD, Izumi Y, Komine–Aizawa S, Shibata T, Shimotai Y, Kuroda K, Mizuguchi M, Ushijima H, Mor G, Hayakawa S. H3N2 influenza A virus

- replicates in immortalized human first trimester trophoblast cell lines and induces their rapid apoptosis. *Am J Reprod Immunol.* 2009 Sep;62(3):139-46.
- 31) Souri M, Iwata H, Zhang WG, Ichinose A: Unique secretion mode of human protein Z: Its Gla domain is responsible for inefficient, vitamin K-dependent and warfarin-sensitive secretion. *Blood* 2009, 113(6): 3857-3864.
- 32) Takashima, S., Takehashi, M., Lee, J., Chuma, S., Okano, M., Hata, K., Suetake, I., Nakatsuji, N., Miyoshi, H., Tajima, S., Tanaka, Y., Toyokuni, S., Sasaki, H., Kanatsu-Shinohara, M. and Shinohara, T. (2009) Abnormal DNA methyltransferase expression in mouse germline stem cells results in spermatogenic defects. *Biol Reprod.* 81, 155-164.
- 33) Shoji, M., Tanaka, T., Hosokawa, M., Reuter, M., Stark, A., Kato, Y., Kondoh, G., Okawa, K., Chujo, T., Suzuki, T., Hata, K., Martin, S. L., Noce, T., Kuramochi-Miyagawa, S., Nakano, T., Sasaki, H., Pillai, R. S., Nakatsuji, N. and Chuma, S. (2009) The TDRD9-MIW12 complex is essential for piRNA-mediated retrotransposon silencing in the mouse male germline. *Dev Cell.* 17, 775-787.
- 34) Kobayashi, H., Yamada, K., Morita, S., Hiura, H., Fukuda, A., Kagami, M., Ogata, T., Hata, K., Sotomaru, Y. and Kono, T. (2009) Identification of the mouse paternally expressed imprinted gene *Zdbf2* on chromosome 1 and its imprinted human homolog *ZDBF2* on chromosome 2. *Genomics.* 93, 461-472.
- 35) Henckel, A., Nakabayashi, K., Sanz, L. A., Feil, R., Hata, K. and Arnaud, P. (2009) Histone methylation is mechanistically linked to DNA methylation at imprinting control regions in mammals. *Hum Mol Genet.* 18, 3375-3383.
- 36) Kobayashi H, Yamada K, Morita S, Hiura H, Fukuda A, Kagami M, Ogata T, Hata K, Sotomaru Y, Kono T.(2009) Identification of the mouse paternally expressed imprinted gene *Zdbf2* on chromosome 1 and its imprinted human homolog *ZDBF2* on chromosome 2. *Genomics* 93, 461-472.
- 37) 齋藤 滋, 杉浦真弓: ワークショップ 12「不育症の新たな原因探索と治療」座長のまとめ. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 45:1143, 2009
- 38) 長谷川徹, 齋藤滋: 初期妊娠異常の診断と管理: 過大着床部・PSTT. 産科と婦人科, 76: 295-300, 2009.
- 39) 齋藤 滋: 産婦人科 不育症の検査と治療 質疑応答. 日本医事新報. 4443,82-83, 2009.
- 40) 齋藤 滋: 「炎症を中心とした免疫反応」周産期医療と inflammatory response. 周産期医学. 39:675-679, 2009.
- 41) 齋藤 滋, 杉浦真弓, 田中忠夫, 藤井知行, 杉俊隆, 丸山哲夫, 竹下俊行, 山田秀人, 小澤伸晃, 木村正, 山本樹生, 藤井俊策, 中塚幹也, 下屋浩一郎: ワークショップ 12「不育症の新たな原因探索と治療」本邦における不育症のリスク因子とその予後に関する研究. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 45:1144-1148, 2009
- 42) 杉浦真弓: 不育症の診断と治療. 産婦人科治療, 99: 655-660, 2009.
- 43) 杉浦真弓: 不育症既往妊娠の予後. 産婦人科の実際, 58: 1919-1924, 2009.
- 44) 杉浦真弓: 不育症の診断と治療. 日本血栓止血学会誌, 20: 501-505, 2009.
- 45) 杉浦真弓: 不育症の診断と治療. 日本産科婦人科学会誌, 61: 1737-1741, 2009
- 46) 北折珠央, 杉浦真弓: 妊娠と臨床検査「妊娠と自己抗体. 臨床検査, 53: 445-449, 2009.
- 47) 杉浦真弓: 抗リン脂質抗体症候群の臨床症状と治療(産科). *Bio Clinica.* 24: 46-50, 2009.
- 48) 杉浦真弓: 特集不妊診療の進歩と問題点「着床前診断の問題点」. 産婦人科治療, 98: 131-135, 2009
- 49) 杉浦真弓: 着床前診断の実際と問題点「習慣流産に対する着床前診断の適応と有効性」. 産婦人科の実際, 58: 171-176, 2009.
- 50) 中野有美, 古川壽亮, 杉浦真弓, 尾崎康彦, 北折珠央, 大林伸太郎. 抑うつを伴う不育症患者のストレスと認知行動療法による改善 日本周産期新生児学会雑誌 2009 Dec. 45 巻 4 号 p1162-4
- 51) 矢富茜, 久下さくら, 三谷久美子, 奥村永里子, 難波沙由里, 米藤由貴, 江見弥生, 中塚幹也, 流・死産後の環境と不育症女性の心理. 岡山県母性衛生25: 50-51, 2009
- 52) 里見操緒, 竹下俊行: 【生殖と免疫をめぐって】夫リンパ球免疫療法後の続発性不妊症: 臨床免疫・アレルギー科(1881-1930)52 巻 2 号

- Page176-179,2009.
- 53) 峯克也, 富山僚子, 桑原慶充, 稲川智子, 阿部崇, 西弥生, 明楽重夫, 成相孝一, 佐藤嘉兵, 竹下俊行: 排卵誘発時の卵胞液中 hexanoyl-lysine 濃度と ART 臨床背景の検討: 日本受精着床学会雑誌(0914-6776)26 巻 1 号 Page114-117,2009.
- 54) 竹下俊行(日本医科大学 産婦人科):【周産期医療と inflammatory response】不育症:周産期医学(0386-9881)39 巻 6 号 Page719-722,2009.
- 55) 竹下俊行: 不育症の診断と治療 子宮奇形の検査と治療: 日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌(0285-8096)46 巻 2 号 Page132,2009.
- 56) 竹下俊行(日本医科大学 産婦人科学): 不育症と母性 流産死産後の心理ケア: 神奈川母性衛生学会誌 (1343-831X)12 巻 1 号 Page73-74,2009.
- 57) 竹下俊行(日本医科大学 産婦人科学教室)【ここが聞きたい 不妊・不育症診療ベストプラクティス】不育症の検査・診断 内分泌・代謝因子【内分泌・代謝異常】不育症における甲状腺機能異常の病態について教えてください. 本当に流産との関係はあるのでしょうか: 臨床婦人科産科(0386-9865)63 巻 4 号 Page639-641,2009
- 58) 竹下俊行(日本医科大学 産婦人科学教室)【ここが聞きたい 不妊・不育症診療ベストプラクティス】不育症の検査・診断 内分泌・代謝因子【内分泌・代謝異常】生殖内分泌異常,甲状腺機能異常,糖尿病の検査の実際について教えてください: 臨床婦人科産科(0386-9865)63 巻 4 号 Page636-637,2009.
- 59) 杉 俊隆. 不育症と自己免疫性 thrombophilia (抗リン脂質抗体、抗第 XII 因子抗体、抗キニンノーゲン抗体)。血栓止血誌; 20: 510-518, 2009.
- 60) 市川 剛, 山本樹生 抗β2グリコプロテインI抗体による絨毛障害 臨床免疫・アレルギー科 52 巻 2 号、188-189,2009
- 61) 山本 樹生, 青木 洋一、中村 晃和 III 不育症の検査・診断 B免疫因子【抗リン脂質抗体】臨床婦人科産科 第 6 3 巻 第 4 号,629-631,2009
- 62) 藤井俊策, 福井淳史 他. 着床のメカニズム 「NK 細胞」. Hormone Frontier in Gynecology 16, 60-67, 2009.
- 63) 福井淳史, 藤井俊策, 他: 受精卵着床不全における NK 細胞の役割. 臨床免疫・アレルギー科 52:158-165, 2009.
- 64) 福井淳史, 藤井俊策, 他. 着床不全症例における NK 細胞上 natural cytotoxicity receptors 発現と NK 細胞産生サイトカイン. 日本受精会誌 26:341-347, 2009.
- 65) 小澤伸晃:【産婦人科専攻医の研修 何を教える?何を学ぶ?(生殖医療編)】不育症の管理(解説/特集). 産科と婦人科. 76(6), 703-708. 2009.
- 66) 山田秀人(2009): 抗リン脂質抗体は産科異常, 特に妊娠高血圧症候群と関連する. 日本周産期・新生児医学会雑誌 45(4):1149-1151.
- 67) 天野真理子, 山田秀人(2009): 不育症と先天性凝固異常. 日本血栓止血学会誌 20(5), 506-509.
- 68) 一瀬白帝: 不育症と凝固 XIII 因子. 日本血栓止血学会誌, 2009; 20(5): 519-526.
- 69) 味村和哉, 柳原格. 「妊娠高血圧症候群」. 大阪府立母子医療センター雑誌、25(2)、pp9-11、2009
- 70) 西原正泰、南 佐和子、八木重孝、米本直裕、柳原 格、樋口隆造. 「和歌山県における後期死産の検討(2003-2007 年)」. 日本周産期・新生児医学会雑誌、45(4)、pp1350-3、2009
- 71) 秦健一郎 (2009)「DNA メチル化の網羅的解析」医学のあゆみ 230, 553-554.

【2010 年】

- 1) Saito S, Shima T, Nakashima A, Lin Y. Immune surveillance during pregnancy. Ind. J. Physiol. Pharmacol. 54:60-63, 2010.
- 2) Saito S, Nakashima A, Shima T, Ito M. Th1/Th2/Th17 and regulatory T cell paradigm in pregnancy. Am J Reprod Immunol. 63:601-610, 2010.
- 3) Shima T, Sasaki Y, Itoh M, Nakashima A, Ishii N, Sugamura K, Saito S. Regulatory T cells are necessary for implantation and maintenance during early stage of pregnancy, but not necessary during late stage of pregnancy in allogeneic mice. J. Reprod Immunol 85:121-129,2010.
- 4) Nakashima A, Ito M, Shima T, Bac ND, Hidaka T, Saito S: Accumulation of IL-17-positive cells in decidua of inevitable abortion cases. Am J Reprod Immunol. 2010;64:4-11.

- 5) Nakashima A, Ito M, Yoneda S, Shiozaki A, Hidaka T, Saito S.: Circulating and decidual Th17 cell levels in healthy pregnancy. *Am J Reprod Immunol*;63:104–109, 2010.
- 6) Lash G.E., Burton G.J. , Chamley, L.W. Clifton V.L. , Constancia M., Crocker I.P. , Dantzer V. , Desoye G. , Drewlo S., Hemmings D.G. , Hiendleder S. , Kalionis B. , Keelan J.A., Kudom Y., Lewis R.M., Manuelpillai U. , Murthi P. , Natale D., Pfarrer C., Robertson S., Saffery R. , Saito S. , Sferruzzi–Perri A., Sobrevia L. , Waddell B.J. , Roberts C.T.: IFPA Meeting 2009 Workshops Report. *Placenta* 31, Supplement A, Trophoblast Research, 24: S4–S20, 2010.
- 7) Shiozaki A., Yoneda S., Soeda Y., Saito S.: Antenatal diagnosis of Breus’ mole by ultrasonography. *Jpn. J. Obstet. Gynecol. Neonatal Hematol.* 19:43–50, 2010.
- 8) Saito S.: Th17 cells and regulatory T cells: New light on pathophysiology of preeclampsia. *Immunology and Cell Biology. News and Commentary.* 88:615–617, 2010.
- 9) Ito M., Nakashima A., Hidaka T., Okabe M., Bac N.D., Ina S., Yoneda S., Shiozaki A., Sumi S., Tsuneyama K., Nikaido T., Saito S. :A role for IL–17 in induction of an inflammation at fetomaternal interface in preterm labour. *J.Reprod Immunol.* 84:75–85, 2010.
- 10) Sugiura–Ogasawara M., Ozaki Y, Kitaori T, Kumagai K, Suzuki S. Midline uterine defect size correlated with miscarriage of euploid embryos in recurrent cases. *Fertil Steril* 2010. 93(6): 1983–8.
- 11) Sugiura–Ogasawara M., Ozaki Y, Kaneko S, Kitaori T, Kumagai K. Japanese single women have limited knowledge of age–related reproductive time limits. *Int J Obstet Gynecol* 2010. 09(1):75–6.
- 12) Obayashi S, Ozaki Y, Sugi T., Kitaori T, Suzuki S, Sugiura–Ogasawara M. Antiphosphatidylethanolamine antibodies might not be independent risk factors for further miscarriage in patients suffering recurrent pregnancy loss. *J.Reprod Immunol.* 2010. 85(2):186–92
- 13) Mikiya Nakatsuka. Endocrine treatment of transsexuals: assessment of cardiovascular risk factors. *Expert Rev. Endocrinol. Metab.* 5(3) 319–322, 2010
- 14) Ono M, Kajitani T, Uchida H, Arase T, Oda H, Nishikawa–Uchida S, Masuda H, Nagashima T, Yoshimura Y, Maruyama T.: OCT4 expression in human uterine myometrial stem/progenitor cells. *Hum Reprod.* 2010; 25(8), 2059–2067.
- 15) Maruyama T., Masuda H, Ono M, Kajitani T, Yoshimura Y: Human uterine stem/progenitor cells: their possible role in uterine physiology and pathology. *Reproduction.* 2010; 140, 11–22.
- 16) Masuda H, Matsuzaki Y, Hiratsu E, Ono M, Nagashima T, Kajitani T, Arase T, Oda H, Uchida H, Asada H, Ito M, Yoshimura Y, Maruyama T., Okano H: Stem Cell–Like Properties of the Endometrial Side Population: Implication in Endometrial Regeneration. *PLoS ONE.* 2010; 5(4), e10387.
- 17) Maruyama T.: Stem/progenitor cells and the regeneration potentials the human uterus. *Reprod Med Biol.* 2010; 9, 9–16.
- 18) Temporal and Spatial Expression of Tumor–Associated Antigen RCAS1 in Pregnant Mouse Uterus. Tskitishvili E, Nakamura H, Kinugasa–Taniguchi Y, Kanagawa T, Kimura T, Tomimatsu T, Shimoya K. *Am J Reprod Immunol.* 2010 Feb;63(2):137–43.
- 19) Oxidative stress–induced S100B protein from placenta and amnion affects soluble Endoglin release from endothelial cells. Tskitishvili E, Sharentuya N, Temma–Asano K, Mimura K, Kinugasa–Taniguchi Y, Kanagawa T, Fukuda H, Kimura T, Tomimatsu T, Shimoya K. *Mol Hum Reprod.* 2010 Mar;16(3):188–99.
- 20) Human C–reactive protein enhances vulnerability of immature rats to hypoxic–ischemic brain damage: a preliminary study. Kinugasa–Taniguchi Y, Tomimatsu T, Mimura K, Kanagawa T, Shimoya K., Murata Y, Kimura T. *Reprod Sci.* 2010 May;17(5):419–25.
- 21) Maternal blood serum and plasma human tumor–associated antigen RCAS1 during the course of uncomplicated pregnancies: a prospective study. Tskitishvili E, Sharentuya N, Tsubouchi H, Kinugasa–Taniguchi Y, Kanagawa T,

- Shimoya K, Tomimatsu T, Kimura T. *Am J Reprod Immunol*. 2010 Sep;64(3):218–24.
- 22) The effect of tumor-associated protein RCAS1 gene silencing on blood pressure and urinary protein excretion in pregnant mouse: a pilot study. Tskitishvili E, Nakamura H, Kinugasa-Taniguchi Y, Kanagawa T, Shimoya K, Tomimatsu T, Kimura T. *Am J Obstet Gynecol*. 2010 Oct;203(4):364.e6–364.e12.
- 23) Miyake H, Iwasaki N, Nakai A, Suzuki S, Takeshita T.: The influence of assisted reproductive technology on women with pregnancy-induced hypertension: a retrospective study at a Japanese Regional Perinatal Center. *J Nippon Med Sch*. 2010 Dec;77(6):312–7.
- 24) Kawabata I, Nagase A, Oya A, Hayashi M, Miyake H, Nakai A, Takeshita T.: Factors influencing the accuracy of digital examination for determining fetal head position during the first stage of labor. *J Nippon Med Sch*. 2010 Dec;77(6):290–5.
- 25) Abe T, Amano I, Sawa R, Akira S, Nakai A, Takeshita T.: Recovery from peripartum cardiomyopathy in a Japanese woman after administration of bromocriptine as a new treatment option. *J Nippon Med Sch*. 2010 Aug;77(4):226–30.
- 26) Kurashina R, Shimada H, Matsushima T, Doi D, Asakura H, Takeshita T.: Spontaneous uterine perforation due to clostridial gas gangrene associated with endometrial carcinoma. *J Nippon Med Sch*. 2010 Jun;77(3):166–9.
- 27) Inde Y, Yamaguchi S, Kamoi S, Takeshita T.: Transition of cytomegalovirus seropositivity in Japanese puerperal women. *J Obstet Gynaecol Res*. 2010 Jun;36(3):488–94.
- 28) Hayashi M, Oya A, Miyake H, Nakai A, Takeshita T.: Effect of urinary trypsin inhibitor on preterm labor with high granulocyte elastase concentration in cervical secretions. *J Nippon Med Sch*. 2010 Apr;77(2):80–5.
- 29) Yagi Y, Watanabe E, Watari E, Shinya E, Satomi M, Takeshita T, Takahashi H.: Inhibition of DC-SIGN-mediated transmission of human immunodeficiency virus type 1 by Toll-like receptor 3 signalling in breast milk macrophages. *Immunology*. 2010 Aug;130(4):597–607. Epub 2010 Apr 6.
- 30) Takeuchi H, Takahashi M, Norose Y, Takeshita T, Fukunaga Y, Takahashi H.: Transformation of breast milk macrophages by HTLV-I: implications for HTLV-I transmission via breastfeeding. *Biomed Res*. 2010;31(1):53–61.
- 31) Yamada H, Atsumi T, Amengual O, Koike T, Furuta I, Ohta K, Kobashi G. Anti- β 2 glycoprotein-I antibody increases the risk of pregnancy-induced hypertension: a case-control study. *J Reprod Immunol* 84:95–99, 2010
- 32) Mitsuhashi T, Warita K, Tabuchi Y, Takasaki I, Kondo T, Sugawara T, Hayashi F, Wang ZY, Matsumoto Y, Miki T, Takeuchi Y, Ebina Y, Yamada H, Sakuragi N, Yokoyama T, Nanmori T, Kitagawa H, Kant JA, Hoshi N. Global gene profiling and comprehensive bioinformatics analysis of a 46,XY female with pericentric inversion of the Y chromosome. *Congenit Anom (Kyoto)* 50:40–51, 2010
- 33) Mitsuhashi T, Warita K, Sugawara T, Tabuchi Y, Takasaki I, Kondo T, Hayashi F, Wang ZY, Matsumoto Y, Miki T, Takeuchi Y, Ebina Y, Yamada H, Sakuragi N, Yokoyama T, Nanmori T, Kitagawa H, Kant JA, Hoshi N: Epigenetic abnormality of SRY gene in the adult XY female with pericentric inversion of the Y chromosome. *Congenit Anom (Kyoto)* 50:85–94, 2010
- 34) Shimada S, Yamada H, Atsumi T, Yamada T, Sakuragi N, Minakami H. Intravenous immunoglobulin therapy for aspirin-heparinoid-resistant antiphospholipid syndrome. *Reprod Med Biol* 9:217–221, 2010
- 35) Yamada H, Ohara N, Amano M. Current concepts on immunological etiologies in recurrent spontaneous abortion and intravenous immunoglobulin therapy. *Res. Adv. in Reproductive Immunology*.1, 1–21, 2010
- 36) Two multipotential transcription factors, NF- κ B and Stat-3, play critical and hierarchal roles for implantation Tadashi Kimura, Kazuhide Ogita, Keiichi Kumasawa, Shinsuke Koyama, Tateki Tsutsui, and Hitomi Nakamura *Indian J Physiol Pharmacol*, 54, 27–32; 2010.

- 37) Lee SK, Fukui A, et al. Fluctuation of Peripheral Blood T, B, and NK Cells during a Menstrual Cycle of Normal Healthy Women. *J Immunol*, 185: 756–762, 2010
- 38) Obayashi S, Ozaki Y, Sugi T, Kitaori T, Katano K, Suzuki S, Sugiura–Ogasawara M. Antiphosphatidylethanolamine antibodies might not be an independent risk factor for further miscarriage in patients suffering recurrent pregnancy loss. *J Reprod Immunol*; 85: 186–192, 2010.
- 39) Yamaguchi, T., Ikeda, Y., Abe, Y., Kuma, H., Kang, D., Hamasaki, N. and Hirai, T. (2010) Structure of the membrane domain of human erythrocyte anion exchanger 1 revealed by electron crystallography. *J Mol Biol*, 397, 179–189.
- 40) Yamaguchi, T., Fujii, T., Abe, Y., Hirai, T., Kang, D., Namba, K., Hamasaki, N. and Mitsuoka, K. (2010) Helical image reconstruction of the outward–open human erythrocyte band 3 membrane domain in tubular crystals. *J Struct Biol*, 169, 406–412.
- 41) Uchiumi, T., Ohgaki, K., Yagi, M., Aoki, Y., Sakai, A., Matsumoto, S. and Kang, D. (2010) ERAL1 is associated with mitochondrial ribosome and elimination of ERAL1 leads to mitochondrial dysfunction and growth retardation. *Nucleic Acids Res*, 38, 5554–5568
- 42) Uchida, Y., Mochimaru, T., Morokuma, Y., Kiyosuke, M., Fujise, M., Eto, F., Harada, Y., Kadowaki, M., Shimono, N. and Kang, D. (2010) Geographic distribution of fluoroquinolone–resistant *Escherichia coli* strains in Asia. *Int J Antimicrob Agents*, 35, 387–391.
- 43) Uchida, Y., Mochimaru, T., Morokuma, Y., Kiyosuke, M., Fujise, M., Eto, F., Eriguchi, Y., Nagasaki, Y., Shimono, N. and Kang, D. (2010) Clonal spread in Eastern Asia of ciprofloxacin–resistant *Escherichia coli* serogroup O25 strains, and associated virulence factors. *Int J Antimicrob Agents*, 35, 444–450.
- 44) Takazaki, S., Abe, Y., Yamaguchi, T., Yagi, M., Ueda, T., Kang, D. and Hamasaki, N. (2010) Mutation of His 834 in human anion exchanger 1 affects substrate binding. *Biochim Biophys Acta*, 1798, 903–908.
- 45) Sekiguchi, K., Akiyoshi, K., Okazaki, N., Yamada, H., Suzuki, M., Maeda, T., Suenobu, S., Izumi, T. and Kang, D. (2010) PLEDs in an infant with congenital protein C deficiency: a case report. *Clin Neurophysiol*, 121, 800–801.
- 46) Schumann, G., Canalias, F., Joergensen, P.J., Kang, D., Lessinger, J.M. and Klauke, R. (2010) IFCC reference procedures for measurement of the catalytic concentrations of enzymes: corrigendum, notes and useful advice. *Clin Chem Lab Med*, 48, 615–621.
- 47) Ruhanen, H., Borrie, S., Szabadkai, G., Tyynismaa, H., Jones, A.W., Kang, D., Taanman, J.W. and Yasukawa, T. (2010) Mitochondrial single–stranded DNA binding protein is required for maintenance of mitochondrial DNA and 7S DNA but is not required for mitochondrial nucleoid organisation. *Biochim Biophys Acta*, 1803, 931–939.
- 48) Komine–Aizawa S, Yamazaki T, Yamazaki T, Hattori S, Miyamoto Y, Yamamoto N, Haga S, Sugitani M, Honda M, Hayakawa S, Yamamoto S. Influence of advanced age on *Mycobacterium bovis* BCG vaccination in guinea pigs aerogenically infected with *Mycobacterium tuberculosis*. *Clin Vaccine Immunol*. 2010 Oct;17(10):1500–6.
- 49) Yanagihara I*, Nakahira K, Yamane T, Kaieda S, Mayanagi K, Hamada D, Fukui T, Ohnishi K, Kajiyama S, Shimizu T, Sato M, Ikegami T, Ikeguchi M, Honda T, Hashimoto H. Structure and functional characterization of *Vibrio parahaemolyticus* thermostable direct hemolysin. *The Journal of Biological Chemistry*, 285(21), pp16267–74, 2010
- 50) Nishihara M, Sonoda M, Matsunami K, Yanagihara K, Yonemoto N, Ida S, Namba F, Shimomura I, Yanagihara I*, Waguri M. Birth length is a predictor of adiponectin levels in Japanese young children. *Journal of Pediatric Endocrinology & Metabolism*, 23, pp913–920, 2010
- 51) Nishihara M, Yamada M, Nozaki M, Nakahira K, Yanagihara I*. Transcriptional regulation of the human *establishment of cohesion 1 homolog 2*

- gene. *Biochemical and Biophysical Research Communications*, 393(1), pp111–7, 2010
- 52) Namba F, Hasegawa T, Nakayama M, Hamanaka T, Yamashita T, Nakahira K, Kimoto A, Nozaki M, Nishihara M, Mimura K, Yamada M, Kitajima H, Suehara N, Yanagihara I*. Placental features of chorioamnionitis colonized with *Ureaplasma* species in preterm delivery. *Pediatric Research*, 67(2), pp166–72, 2010
- 53) Hamada D, Hamaguchi M, Suzuki KN, Sakata I, Yanagihara I. Cytoskeleton–modulating effectors of enteropathogenic and enterohemorrhagic *Escherichia coli*: a case for EspB as an intrinsically less–ordered effector. *FEBS J*, 277(11), pp2409–15, Review, 2010
- 54) Mimura K, Tomimatsu T, Sharentuya N, Tskitishvili E, Kinugasa–Taniguchi Y, Kanagawa T, Kimura T. Nicotine restores endothelial dysfunction caused by excess sFlt1 and sEng in an in vitro model of preeclamptic vascular endothelium: a possible therapeutic role of nicotinic acetylcholine receptor (nAChR) agonists for preeclampsia. *Am J Obstet Gynecol*. 202(5), pp464.e1–6. 2010
- 55) Kinugasa–Taniguchi Y, Tomimatsu T, Mimura K, Kanagawa T, Shimoya K, Murata Y, Kimura T. Human C–reactive protein enhances vulnerability of immature rats to hypoxic–ischemic brain damage: a preliminary study. *Reprod Sci*. 17(5), pp419–25. 2010
- 56) Sharentuya N, Tomimatsu T, Mimura K, Tskitishvili E, Kinugasa–Taniguchi Y, Kanagawa T, Kimura T. Nicotine suppresses interleukin–6 production from vascular endothelial cells: a possible therapeutic role of nicotine for preeclampsia. *Reprod Sci*. 17(6), pp556–63. 2010
- 57) Tskitishvili E, Sharentuya N, Temma–Asano K, Mimura K, Kinugasa–Taniguchi Y, Kanagawa T, Fukuda H, Kimura T, Tomimatsu T, Shimoya K. Oxidative stress–induced S100B protein from placenta and amnion affects soluble Endoglin release from endothelial cells. *Mol Hum Reprod*. 16(3), pp188–99. 2010
- 58) Morishige T., Yoshioka Y., Inakura H., Tanabe A., Yao X., Tsunoda S., Tsutsumi Y., Mukai Y., Okada N., Nakagawa S. Cytotoxicity of amorphous silica particles against macrophage–like THP–1 cells depends on particle–size and surface properties. *Pharmazie*. 65(8):596–9, 2010.
- 59) Nabeshi H., Yoshikawa T., Matsuyama K., Nakazato Y., Arimori A., Isobe M., Tochigi S., Kondoh S., Hirai T., Akase T., Yamashita T., Yamashita K., Yoshida T., Nagano K., Abe Y., Yoshioka Y., Kamada H., Imazawa T., Itoh N., Tsunoda S., Tsutsumi Y. Size–dependent cytotoxic effects of amorphous silica nanoparticles on Langerhans cells. *Pharmazie*. 65(3):199–201, 2010.
- 60) Higashisaka K., Yoshioka Y., Yamashita K., Morishita Y., Fujimura M., Nabeshi H., Nagano K., Abe Y., Kamada H., Tsunoda S., Yoshikawa T., Itoh N., Tsutsumi Y. Acute phase proteins as biomarkers for predicting the exposure and toxicity of nanomaterials. *Biomaterials*. 32(1):3–9, 2010.
- 61) 齋藤 滋, 中島彰俊, 島 友子: 妊娠と免疫. *周産期医学*. 40:1569–1573, 2010.
- 62) 島 友子, 中島彰俊, 齋藤 滋: 胎盤と免疫. *周産期医学*, 40:1037–1042, 2010.
- 63) 島 友子, 中島彰俊, 齋藤 滋: 凝固系と炎症反応. *産科と婦人科*, 77:956–962, 2010.
- 64) 米田 哲, 齋藤 滋: 流産. *消化器外科 外科当直医必携*. へるす出版, 33:763–765, 2010.
- 65) 齋藤 滋, 島 友子, 中島彰俊: 着床、妊娠維持における制御性(regulatory)T 細胞の重要性. *医学のあゆみ*, 233:129–134, 2010.
- 66) 齋藤 滋: 周産期 習慣流産に対する抗凝固療法—アスピリン単独療法か、アスピリン＋ヘパリン併用療法か—. *産婦人科の実際*, 59:299–302, 2010.
- 67) 鮫島梓, 米田徳子, 齋藤滋: 身体所見. *ペリネイタルケア* 2373:27–35, 2010.
- 68) 佐藤剛、齋藤知恵子、服部幸雄、杉浦真弓 : 染色体相互転座に起因する習慣流産に対する FISH を用いた着床前診断の現状と技術的問題点. *J Cytometry Research*, 20: 21–26, 2010
- 69) 杉浦真弓、尾崎康彦、片野衣江 : 綜説シリーズ—現代医学の焦点—「習慣流産の診断と治療」. *日本臨床*, 68 :2351–2356, 2010.
- 70) 杉浦真弓 : 周産期医療と胎盤—抗リン脂質抗体症候群. *周産期医学*, 40, 1133–1136, 2010.
- 71) 杉浦真弓 : 習慣流産に関する着床前診断の意

- 義—スクリーニングと均衡型転座保因者に対して—産婦人科の実際, 59: 397-401, 2010.
- 72) 杉浦真弓: 不育症に対する抗凝固療法. 産婦人科の実際, 59: 1291-1295, 2010.
- 73) 杉浦真弓: 習慣流産の診断と治療—この疾患はどう変わってきたか. 現代医学, 58: 133-136, 2010.
- 74) 秦久美子. 不育症女性の妊娠による束縛感と不安. 岡山大学大学院保健学研究科博士前期課程論文(指導 中塚幹也)
- 75) 中塚幹也. 妊産褥婦の診察と検査/妊娠の診断と妊婦管理. 講義録産科婦人科学, 石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編, メジカルビュー社, 東京, 2010年2月.
- 76) 中塚幹也. ジェンダーとセクシュアリティ. 講義録産科婦人科学, 石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編, メジカルビュー社, 東京, 2010年2月.
- 77) 中村恵子, 小野晴美, 芳賀真子, 中塚幹也. 岡大式教育資料を用いた不育症患者に対するヘパリン自己注射指導の有用性の検討. 看護研究集録平成21年度 69-74, 2010
- 78) 吉田真奈美, 溝口祥代, 山下真由, 中塚幹也. 妊婦における食の安全性, 葉酸, 水銀の摂取に関する認識. 母性衛生 50(4):568-574, 2010
- 79) 小寺菜見子, 大田有貴子, 塩田萌, 中塚幹也. 不妊症に対する高校生と大学生の意識調査. 岡山県母性衛生. 第26号:43-44, 2010.
- 80) 江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 菊池由加子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也. 不育症症例における初診時の顕在性不安の検討. 岡山県母性衛生. 第26号:45-46, 2010.
- 81) 中塚幹也. LPS, AGEs 刺激による一酸化窒素(NO)産生酵素誘導とプロテアーゼインヒビター. Surgery Frontier 17(3):111-116, 2010.
- 82) 江見弥生, 藤原順子, 中塚幹也. 不育症女性の抑うつ傾向と顕在性不安の検討:K6, MAS を使用して. 日本不妊カウンセリング学会誌 9(1):43-44, 2010.
- 83) 石丸文穂, 藤原順子, 江見弥生, 中塚幹也. 不妊専門相談センターによる遠隔地の出張相談. 日本不妊カウンセリング学会誌 9(1):77-78, 2010.
- 84) 杉 俊隆, 中塚幹也(ライター 狩生聖子) 知って得する! 新「名医の最新治療」Vol.156 不育症. 週刊朝日 115(51)通巻 5037号 104-106, 2010年11月12日. 新「名医」の最新治療2011: その病気はこうやって治せ! 朝日新聞出版, 東京.
- 85) 丸山哲夫: 子宮における幹細胞 産婦人科の実際 2010;59(9):1381-1387.
- 86) 丸山哲夫: ヒト子宮における幹細胞. 日本生殖内分泌学会雑誌 2010; 15, 25-27.
- 87) 外来診療マニュアル 周産期 流産・習慣流産 下屋浩一郎, 石田剛, 張良実, 潮田至央, 郭翔志, 中村隆文, 中井祐一郎 産婦人科の実際 59巻11号 Page1775-1780(2010.10)
- 88) これだけは知っておきたい胎児の診断と治療 胎児 well-being 下屋浩一郎, 石田剛, 張良実, 潮田至央, 郭翔志, 中村隆文, 中井祐一郎 産婦人科治療 101巻5号 Page526-532(2010.11)
- 89) 市川智子, 神戸沙織, 阿部崇, 富山僚子, 峯克也, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: アスピリン・ヘパリン療法不成功不育症例の臨床遺伝学的検討. 日本受精着床学会雑誌(0914-6776)27巻1号 260-263. 2010.
- 90) 峯克也, 桑原慶充, 神戸沙織, 市川智子, 阿部崇, 富山僚子, 西弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: アスピリン・ヘパリン療法中に絨毛膜下血腫を呈し、アスピリン中止後子宮内胎児死亡に至った胎児腹壁破裂症例. 日本受精着床学会雑誌(0914-6776)27巻1号 252-255. 2010.
- 91) 中西一步, 阿部崇, 中尾仁彦, 大内望, 市川智子, 峯克也, 澤倫太郎, 磯崎太一, 明楽重夫, 竹下俊行: 抗凝固療法を行ったにも関わらず脳梗塞を合併した抗リン脂質抗体陽性妊婦の一例. 日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌(0285-8096)47巻2号. 2010
- 92) 杉 俊隆. 抗 phosphatidylethanolamine 抗体と抗第 XII 因子抗体. 医学のあゆみ; 233: 169-174, 2010.
- 93) 杉 俊隆. 習慣流産と血液凝固阻害薬. 産科と婦人科; 77: 925-930, 2010.
- 94) 杉 俊隆. 不育症. 講義録 産科婦人科学. 編集 石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫. メジカルビュー社. 244-245. 2010.
- 95) 杉 俊隆. 抗リン脂質抗体症候群. 日産婦誌; 62: N150-154, 2010.
- 96) 杉 俊隆. 抗リン脂質抗体. 生殖医療ガイドライン 2010. 日本生殖医学会編. 金原出版. 278-280, 2010.

- 97) 杉 俊隆. 不育症とは. 月刊地域保健. 東京法規出版. 2010.6.38-43.
- 98) 抗β2GPI 抗体とその作用機序 山本樹生、市川 剛、千島史尚、医学のあゆみ 233(2):163-167,2010
- 99) 小澤伸晃、他:高齢妊娠と流産リスク. 産婦の実際 59(2):167-172, 2010.
- 100) 小澤伸晃、他:産婦人科領域におけるアレイCGH 3.産科領域のCGH 解析. 産婦の実際 59(2):237-243, 2010.
- 101) 小澤伸晃、他:流産胎児の遺伝学的解析. 産婦の実際 59(12):2009-2014, 2010.
- 102) 山田秀人. 難治性習慣流産の免疫グロブリン療法. 週間日本医事新報 4487, 52-57, 2010
- 103) 山田秀人, 小橋 元, 渥美達也. 抗リン脂質抗体は産科異常, 特に妊娠高血圧症候群と関連する. 産婦人科の実際 59(5), 789-794, 2010
- 104) 天野真理子, 森實真由美, 山田秀人. 不育と遺伝因子. 産婦人科の実際 59(12), 1969-1983, 2010
- 105) 山田秀人. 不育症の病因と治療—難治性習慣流産に対する免疫グロブリン療法—. 北産婦医会報第 123 号, 2-11, 2010
- 106) 福井淳史, 藤井俊策他. 黄体中期子宮内膜および流産脱落膜 Natural Killer 細胞における Natural Cytotoxicity Receptors 発現. 日本受精着床学会雑誌 27 (1): 369-374, 2010
- 107) 佐田文宏, 山田秀人. 早産と遺伝因子. 産婦人科の実際 2010;59(12):1991-2000.
- 108) 相澤志保子[小峰](日本大学 医学部病態病理学系微生物学分野), 早川智 【妊娠免疫 Update 子宮内膜局所免疫と妊娠】 Toll-like receptor の胎盤における機能 :医学のあゆみ 233 巻 2 号 Page147-150 2010
- 109) 早川 智 産婦人科学領域への関与 清野宏編著 臨床粘膜免疫学 シナジー 2010
- 110) 惣宇利正善, 岩田宏紀, 張 偉光, 一瀬白帝:ヒト protein Z の分泌様式. 血液・腫瘍科, 2010; 60(2): 183-91.
- 111) 惣宇利正善:ヒト protein Z の独特な分泌様式:GLAドメインによる非効率、ビタミンK依存性かつワーファリン感受性な分泌. 日本血栓止血学会誌, 2010; 21(3): 327-33.
- 112) 橋本博, 山根努, 池口満徳, 中平久美子, 柳原格. 「腸炎ピブリオが産生する耐熱性溶血毒 TDH の構造と機能」. 日本結晶学会誌, 52, 285-289, 2010
- 113) 中山聡一郎, 中山雅弘, 味村和哉, 光田信明. 「妊娠高血圧症候群の病態解明—分子機構を中心に—胎盤からみた妊娠高血圧症候群」. 産婦人科の実際, 59, 1005-1011, 2010
- 114) 秦健一郎 (2010)「胎児発育とゲノムインプリンティング」 HORMONE FRONTIER IN GY7NECOLOGY 17, 43-48.
- 115) 吉川友章, 吉岡靖雄, 堤 康央:非晶質ナノシリカの経皮吸収性/生体内動態と安全性との関連追求, ナノ材料のリスク評価と安全性対策, フロンティア出版, 44-53, 2010.

【2011年】

- 1) Lin Y, Li C, Shan B, Wang W, Saito S, Xu J, Di J, Zhong Y, Li DJ. Reduced stathmin-1 expression in NK cells associated with spontaneous abortion. Am J Pathol.178 : 506-514, 2011.
- 2) Hayashi K., Matsuda Y., Kawamichi Y., Shiozaki A., Saito S.: Smoking during pregnancy increases risks of various obstetric complications: A case-cohort study of the Japan Perinatal Registry Network Database. J Epidemiol. 2011; 21:61-66
- 3) Negishi M, Izumi Y, Aleemuzzaman S, Inaba N, Hayakawa S. Lipopolysaccharide (LPS)-induced Interferon (IFN)-gamma production by decidual mononuclear cells (DMNC) is interleukin (IL)-2 and IL-12 dependent. Am J Reprod Immunol. 2011 Jan;65(1):20-7.
- 4) 岡井崇, 杉浦真弓, 松田義雄, 上妻志郎 : 産婦人科医師の視点からみた妊娠女性の高年齢化(企画、座談会). 日本医師会雑誌, 139 : 2056-2121, 2011
- 5) 中野有美, 古川壽亮 「ひとくちメモ」不育症の精神的ケア 日本医師会雑誌 2011
- 6) 早川 智 妊婦の感染症 山口 徹他 編 今日の治療指針 vol53 2011 医学書院

【In press】

- 1) Yamashita K., Yoshioka Y., Higashisaka K., Mimura K., Morishita Y., Nozaki M., Yoshida T., Ogura T., Nabeshi H., Nagano K., Abe Y., Kamada H., Monobe Y., Imazawa T., Aoshima H., Shishido K., Kawai Y., Mayumi T., Tsunoda S., Itoh N., Yoshikawa T., Yanagihara I., Saito S., Tsutsumi